

実 技 試 験

平成24年1月（2011年度1月）
2級ファイナンシャル・プランニング技能検定 実技試験
FP協会：資産設計提案業務

☆☆☆解答に当たっての注意事項☆☆☆

- ・ 問題数は40問、解答はすべて記述式です。
- ・ 択一問題の場合、選択肢の中から正解と思われるものを1つ選んでください。
- ・ 語群選択問題の場合、語群の中からそれぞれの空欄にあてはまるとと思われる語句・数値を選び、語群に記されたとおりに解答用紙の所定の欄に記入してください。また、語群の語句・数値にそれぞれ番号が付してある場合は、その番号のみを記入してください。
- ・ 語群のない問題の場合、指示に従い解答用紙の所定の欄に直接正解と思われる語句・数値・記号を記入してください。
- ・ 試験問題については、特に指示のない限り、平成23年10月1日現在施行の法令等に基づいて解答してください。

【第1問】下記の（問1）、（問2）について解答しなさい。

問1

ファイナンシャル・プランナー（以下「FP」という）が、ファイナンシャル・プランニング業務を行ううえでは「関連業法」を順守することが重要である。FPの行為に関する次の（ア）～（エ）の記述について、適切なものには○、不適切なものには×を解答欄に記入しなさい。

- （ア） 社会保険労務士資格を有していないFPが、顧客から公的年金制度の改正に関する質問を受け、回答した。
- （イ） 税理士資格を有していないFPが、無償で顧客の具体的な納税額に関する税務相談を行った。
- （ウ） 弁護士資格を有していないFP（遺言者や公証人と利害関係はない）が、顧客から依頼され、公正証書遺言の証人となった。
- （エ） 司法書士資格を有していないFPが、顧客の任意後見人となる契約を締結した。

問2

「金融商品取引法」に関する次の（ア）～（ウ）の記述について、正しいものには○、誤っているものには×を解答欄に記入しなさい。

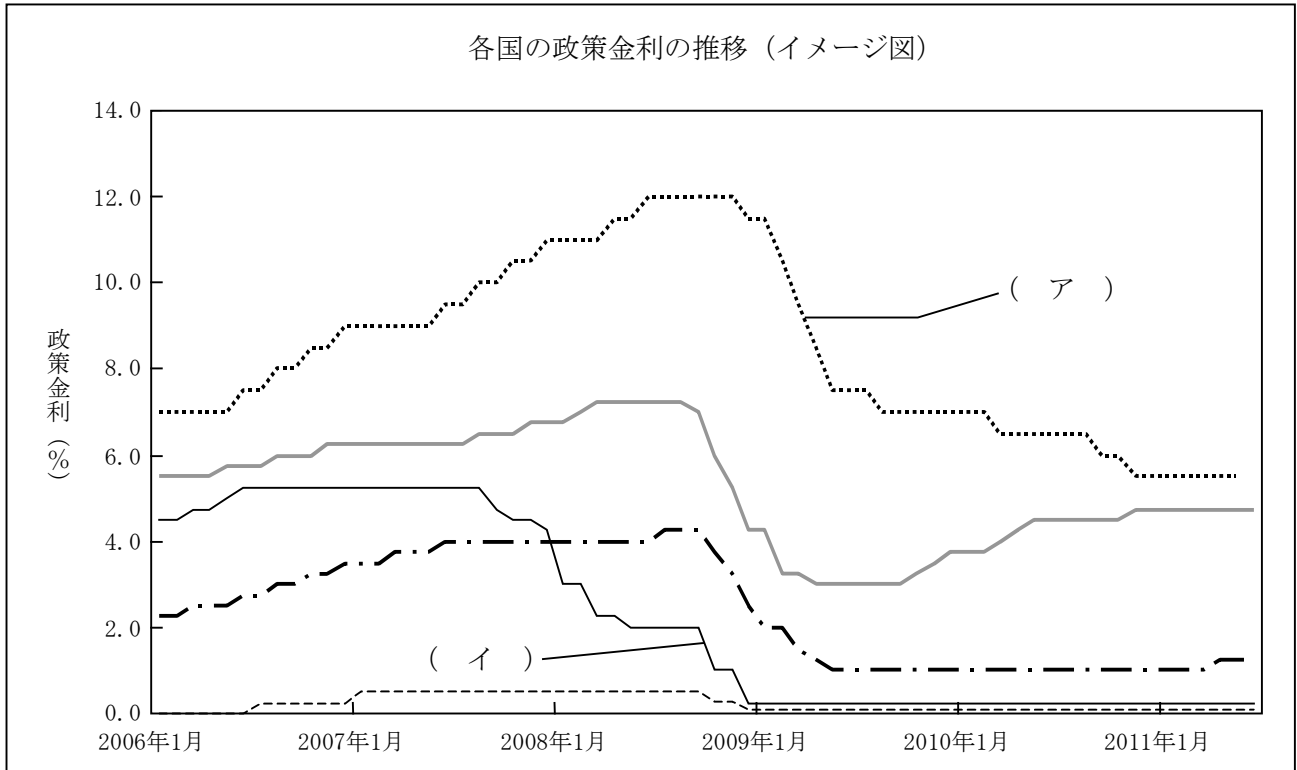
- （ア） 金融商品取引法では、金融商品取引業者は、原則として金融商品取引契約締結後に遅滞なく、契約の概要等を記載した書面を顧客に交付するよう定められている。
- （イ） 金融商品取引法では、一般投資家に対する販売・勧誘に関して、顧客の知識、経験、財産の状況、金融商品取引契約を締結する目的に照らして、その人に適応した商品を販売・勧誘しなければならないとする「適合性の原則」を定めている。
- （ウ） 金融商品取引法における金融商品取引業者は、内閣総理大臣の登録を受けなければならない。

【第2問】下記の（問3）～（問5）について解答しなさい。

問3

下記<資料>のグラフは、日本、米国、オーストラリア、ユーロ圏、南アフリカの政策金利の推移（イメージ図）を示したものである。このグラフのうち、（ア）、（イ）に該当するものの組み合わせとして、正しいものはどれか。

<資料>



※表示されている各国の主要政策金利は、以下の中央銀行による指標を参照している。

国名	通貨	中央銀行
日本	円	BOJ（日本銀行）
米国	米ドル	FED（連邦準備制度理事会）
オーストラリア	豪ドル	RBA（オーストラリア準備銀行）
ユーロ圏	ユーロ	ECB（欧州中央銀行）
南アフリカ	ランド	SARB（南アフリカ準備銀行）

1. (ア) ユーロ圏 (イ) 米国
2. (ア) ユーロ圏 (イ) オーストラリア
3. (ア) 南アフリカ (イ) 米国
4. (ア) 南アフリカ (イ) オーストラリア

問 4

下記<資料>は、榎本さんの取引金融機関が発行した「残高報告書」の一部抜粋である。この内容に関して F P が榎本さんに行った次の (ア) ～ (エ) の説明について、適切なものには○、不適切なものには×を解答欄に記入しなさい。

<資料>

榎本 浩太様 (お客様番号 001-*****)					
平成23年12月30日現在					
お預り証券等残高の明細					
銘柄名	概算評価額	数量	評価日の 単価	取得時の 単価	備考
【証券総合口座】					
MR F	551,224円	551,224口			
評価額小計	551,224円				
【債券】					
個人向け国債 (変動10年)第21回債	800,000円	800,000円			利払日： 1月15日・7月15日 償還日： 平成30年1月15日
MA株式会社 普通社債 第3回債	299,400円	300,000円	99.80円	100.00円	利払日： 4月25日・10月25日 償還日： 平成25年10月25日 利率：年1.2%
評価額小計	1,099,400円				
【投資信託】					
MX グローバル債券 ファンド(毎月決算型)	525,900円	600,000口	8,765円	9,647円	決算日：毎月20日
評価額小計	525,900円				
お預り残高の評価額合計	2,176,524円				

- (ア)「証券総合口座用のMRF（マネー・リザーブ・ファンド）は、購入後30日未満に換金をする場合、1万口当たり10円の信託財産留保額が差し引かれます。」
- (イ)「個人向け国債（変動10年）を中途換金するには、発行から2年を経過していなければなりません。」
- (ウ)「MA株式会社の普通社債の利子に課される税率は、現在、軽減税率で10%（所得税7%、住民税3%）です。」
- (エ)「MXグローバル債券ファンド（毎月決算型）は、決算の結果、運用状況に応じて収益分配金が支払われないこともあります。」

問5

下記<資料>に関する次の記述の空欄（ア）、（イ）にあてはまる数値を解答欄に記入しなさい。

<資料>

年月【資本異動】	万株	【株式】%1,811,428千株	【株主】◎196,771名<11.3> 万株	<p>【減益】主力の4輪は部品不足で内外工場の稼働低下。夏に正常化、下期猛烈に盛り返し販売台数は前年(351万台)も高野。海外販売好調な2輪下支え。円高が懸念、合理化も一歩後退で減配も。業所一部機能移転、開発に遅れない。他、春自社製品使った省エネ住宅の実験開始。来13事</p>						
03. 7	合併	97,441	日本マスター信託口 13,634(7.5)							
05. 1	交換	93,941	日本マスター信託口 7,786(4.2)							
06. 3	交換	91,741	モクスレイ&Co. 7,490(4.1)							
06. 4	交換	91,741	JPモルガン・チェース・バンク380055 6,621(3.6)							
06. 7	分1→2	183,482	東京海上日動火災 5,636(3.1)							
10. 8	消却	181,142	明治安田生命保険 5,119(2.8)							
東証 57~08	高値	安値	三菱東京UFJ銀行 3,668(2.0)							
09	3230(8)	1860(1)	三井住友海上火災 3,503(1.9)							
10	3410(1)	2470(7)	損保ジャパン 3,476(1.9)							
11.1~5	3745(2)	2820(3)	日本生命保険 3,470(1.9)							
11. 1	高値	安値	調整1株益 一円							
2	3555	3195	最高純益(08.3) 600,039							
3	3620	2820	設備投資 3,113億予・億							
4	3190	2843	減価償却 3,252億予・億							
#5	3255	3000	研究開発 4,875億予・億							
【包括利益】<◎11.3> 前期			【役員】会近藤広一(紳伊東)							
269,195(403,951)			<投信> 5.1% <特定株> 33.8%							
【外国人持株比率】			池史彦 川鍋智彦 山本芳春							
<11.3>34.9 <中10.9>33.7			法眼健作 畔柳信雄 飯相福							
			井威夫 山田琢二 吉田正							
			弘(常監) 恩田徹 卷末							
			【連結】本田技術研究所, ホンダ							
			エンジニアリング, 米国ホンダ							
【業績】(百万円)	売上	営業利益	税引前利益	利益	1株益(円)	1株配(円)	【配当】	配当金(円)	【本社】	107-8556東京都港区南青山2-1-1
◎07. 3	11,087,140	851,879	792,868	592,322	324.6	67	10. 9	12	☎03-3423-1111	
◎08. 3	12,002,834	953,109	895,841	600,039	330.5	86	10.12	15	【工場】	埼玉, 浜松, 鈴鹿, 熊本, 栃木
◎09. 3	10,011,241	189,643	161,734	137,005	75.5	63	11. 3	15		
◎10. 3	8,579,174	363,775	336,198	268,400	147.9	38	11. 6予	10~12		
◎11. 3	8,936,867	569,775	630,548	534,088	295.7	54	11. 9予	10~12		
◎12. 3予	8,760,000	480,000	495,000	420,000	233.0	44~54	11.12予	12~15		
◎13. 3予	9,700,000	720,000	735,000	600,000	332.9	54~60	12. 3予	12~15		
中10. 9	4,613,374	397,916	422,353	408,416	225.7	24	予配当利回り	1.42%		
中11. 9予	3,800,000	130,000	130,000	110,000	61.0	20~24	1株配(円)<◎11. 3>			
中12. 3予	震災理由に業績予想非開示				(11.6.2増益)		2,469	(2,385)		

(出所：会社四季報 東洋経済 2011年3集)

- この企業の株式を1単元（1単位）保有していた場合、2011年3月期における年間の配当金額（税引前）は（ア）円である。
- この企業の株式を2006年2月末時点で100株保有していた場合、株式分割の結果、2011年3月末時点では（イ）株保有していることになる。

【第3問】下記の（問6）～（問9）について解答しなさい。

問6

建築基準法上の道路に関する次の記述の空欄（ア）～（ウ）に入る適切な数値を語群の中から選び、解答欄に記入しなさい。なお、同じ数値を何度選んでもよいこととする。

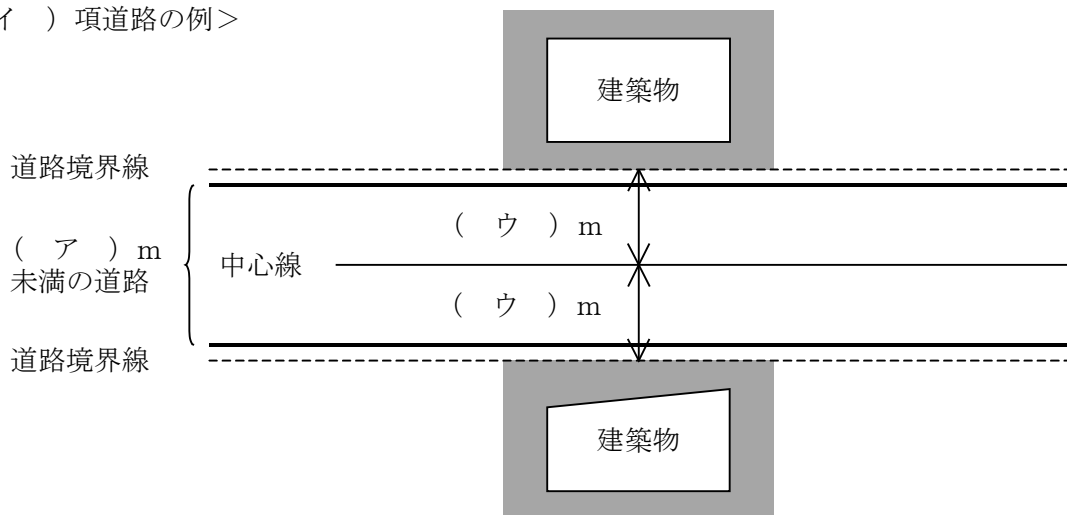
建築基準法上の道路とは、原則として、幅員（ア）m以上のもので、下記<資料>に示したものである。

<資料：建築基準法上の道路とは>

- (1) 道路法による道路
- (2) 都市計画法、土地区画整理法、都市再開発法等による道路
- (3) 建築基準法第3章の規定が適用されるに至った際、現に存在する道路（公道・私道）
- (4) 新設または変更の事業計画のある道路で、2年以内にその事業が執行される予定のものとして特定行政庁が指定したもの
- (5) 私道で、一定の基準に適合する道で、私道の所有者が特定行政庁からその位置の指定を受けたもの（位置指定道路）

なお、現に建築物が立ち並んでいる幅員（ア）m未満の道であっても、特定行政庁の指定を受けたものは、いわゆる（イ）項道路として例外的に道路とみなされる。この場合、道路の両側が宅地であるときには、その道路の中心線から（ウ）mずつ両側に後退した線を道路境界線とみなす。

<（イ）項道路の例>



<語群>

2 3 4 5 6 8 10

問7

下記<資料>は、平成18年に住宅ローン契約を締結している布施さんの登記事項証明書（土地）の一部である。この登記事項証明書に関する次の（ア）～（エ）の記述について、正しいものには○、誤っているものには×を解答欄に記入しなさい。

<資料>

権利部（乙区）（所有権以外の権利に関する事項）			
順位番号	登記の目的	受付年月日・受付番号	権利者その他の事項
1	抵当権設定	平成18年3月20日 第212号	原因 平成18年3月20日金銭消費貸借同日設定 債権額 金3,000万円 利息 年2・10%（年365日日割計算） 損害金 年14・5%（年365日日割計算） 債務者 東京都港区虎ノ門〇-△-□ 布施達雄 抵当権者 東京都中央区中央◇-×-△ 株式会社むくどり銀行

- （ア）平成18年3月20日にむくどり銀行の抵当権設定登記が行われ、抵当権設定当初の債権額は3,000万円であることがわかる。
- （イ）住宅ローンに係る抵当権設定登記の費用は、抵当権者であるむくどり銀行が全額を負担する。
- （ウ）布施さんが債務の弁済を怠った場合、むくどり銀行は裁判所に申し立てて、この土地を競売にかけ、債権を回収することができる。
- （エ）この土地には、むくどり銀行の抵当権が設定されているため、別途、他の金融機関が抵当権を設定することはできない。

問8

新築住宅に対する固定資産税の減額制度に関する下記<資料>の空欄（ア）～（エ）にあてはまる数値の組み合わせとして、正しいものはどれか。

<資料>

[新築住宅に対する固定資産税の減額（認定長期優良住宅でない場合）]	
要件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専用住宅、併用住宅（併用住宅の場合、居住用部分の床面積の割合が全体の2分の1以上） ・ 居住用部分の床面積が（ア）m²（一戸建ての場合）以上280m²以下
内容	・（イ）m ² までの床面積に対する固定資産税額の（ウ）を減額
期間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3階建て以上の中高層耐火構造等の場合は（エ）年度分 ・ 一般の住宅（木造等）は3年度分

1. (ア) 30 (イ) 120 (ウ) 1/2 (エ) 7
2. (ア) 30 (イ) 240 (ウ) 1/3 (エ) 5
3. (ア) 50 (イ) 240 (ウ) 1/3 (エ) 7
4. (ア) 50 (イ) 120 (ウ) 1/2 (エ) 5

問9

下記<資料>は、インターネット上の不動産広告（抜粋）である。この広告の内容に関する次の（ア）～（エ）の記述について、正しいものには○、誤っているものには×を解答欄に記入しなさい。

<資料>

【建築条件付き土地】			
所在地：〇〇市△△町3丁目2番1号			
交通：□□線△△駅から徒歩12分			
価格：1,980万円			
面積：125m ²			
建ぺい率・容積率	建ぺい率：60% 容積率：200%	設備	公営水道・都市ガス・本下水
用途地域	準住居地域	土地の権利	所有権
建築条件	あり	取引態様	売主

- (ア) □□線△△駅からこの土地までの道路距離は、960m超1,040m以下である。
- (イ) この土地に建築できる建物の建築面積は、最大で250m²である。
- (ウ) この土地を購入する場合、不動産業者に仲介手数料を支払う必要はない。
- (エ) この土地は、売買契約から一定期間内に特定の建築業者と建築請負契約を結ぶことが条件となっている。

【第4問】下記の（問10）～（問13）について解答しなさい。

問10

細川秀一さんが団体扱いで契約している下記＜資料＞の医療保険に関する次の（ア）～（エ）の記述について、正しいものには○、誤っているものには×を解答欄に記入しなさい。なお、秀一さんはこれまでに下記＜資料＞の保険から、保険金および給付金を一度も受け取っていないものとする。また、（ア）～（エ）の記述はそれぞれ独立した問題であり、相互に影響を与えないものとする。

＜資料＞

保険種類 医療保険	契約日（保険期間の始期）
証券番号 **** * * * * * * * * * *	2000年（平成12年）5月1日

保険契約者	細川 秀一 様	保険契約者印 
被保険者	細川 秀一 様 契約年齢 31歳	
受取人	(給付金) 被保険者 様 (死亡保険金) 細川 富美子 様 (続柄 妻) 分割割合 10割	
指定代理請求人	細川 富美子 様 (続柄 妻)	

◇保険料

保険期間	終身	保険料	毎月****円
保険料払込期間	終身	保険料払込方法	団体扱い

◇保障内容

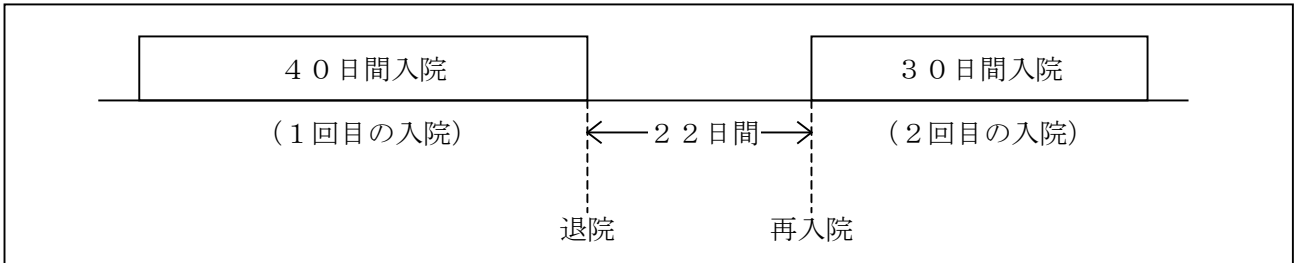
入院給付金	日額5,000円（5日以上入院時に5日目から）
手術給付金	10万円（1回につき）
通院給付金	日額3,000円（退院後の通院に限る）
死亡保険金	50万円

- （ア） 秀一さんが退職した場合、団体扱いで契約していたこの医療保険は自動的に解約扱いとなる。
- （イ） 秀一さんが、胆石の手術（1回）で14日間入院した場合、入院給付金と手術給付金の合計15万円を受け取ることができる。
- （ウ） 秀一さんが、手術前の検査のために2日間通院した場合、通院給付金として6,000円を受け取ることができる。
- （エ） 秀一さんが交通事故により即死した場合、富美子さんは死亡保険金として50万円を受け取ることができる。

問 1 1

岡さんは、最近、同じ病気で2回入院をした。岡さんが契約している医療保険（下記参照）から受け取れる入院給付金の日数として、正しいものはどれか。なお、岡さんはこれまでにこの医療保険から一度も給付金を受け取っていないものとする。また、手術給付金については考慮しないものとする。

<岡さんの入院日数>



<岡さんの医療保険の入院給付金（日額）の給付概要>

- ・ 給付金の支払い条件：5日以上入院で入院5日目より支払う。
- ・ 1入院限度日数： 60日
- ・ 通算限度日数： 1,095日
- ・ 180日以内に同じ病気で再度入院した場合は、1回の入院とみなす。

1. 1回目の入院につき36日分、2回目の入院につき24日分
2. 1回目の入院につき36日分、2回目の入院につき30日分
3. 1回目の入院につき40日分、2回目の入院につき24日分
4. 1回目の入院につき40日分、2回目の入院につき30日分

問 12

下記の生命保険契約について、保険金・給付金が支払われた場合の税金に関する次の記述の空欄（ア）～（エ）に入る適切な語句を語群の中から選び、その番号のみを解答欄に記入しなさい。なお、同じ語句を何度選んでもよいこととする。

<生命保険の加入状況>

	保険種類	払込方法	契約者 (保険料負担者)	被保険者	死亡保険金 受取人	満期保険金 受取人	年金 受取人
契約A	終身保険	月払い	夫	夫	妻	—	—
契約B	養老保険	年払い	夫	妻	夫	夫	—
契約C	医療保険	月払い	妻	妻	夫	—	—
契約D	個人年金保険	年払い	夫	夫	妻	—	夫

- ・ 契約Aについて、妻が受け取った死亡保険金は、（ア）となる。
- ・ 契約Bについて、夫が受け取った満期保険金は、（イ）となる。
- ・ 契約Cについて、妻が受け取った入院給付金は、（ウ）となる。
- ・ 契約Dについて、夫が毎年受け取る年金は、（エ）となる。

<語群>

1. 相続税の課税対象
2. 贈与税の課税対象
3. 所得税（一時所得）の課税対象
4. 所得税（雑所得）の課税対象
5. 所得税（源泉分離課税）の課税対象
6. 非課税

問 13

地震保険に関する次の記述の空欄（ア）～（ウ）にあてはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。

地震保険の保険金額は、火災保険の保険金額の（ア）の範囲内で設定するが、居住用建物は5,000万円、家財は（イ）が限度となる。
支払われる保険金は、保険の対象である建物や家財の損害の程度に応じて、全損の場合は契約金額の100%、半損の場合は契約金額の50%、一部損の場合は契約金額の（ウ）で、いずれの場合も時価が限度となる。

1. (ア) 30%～80% (イ) 1,000万円 (ウ) 10%
2. (ア) 30%～80% (イ) 3,000万円 (ウ) 5%
3. (ア) 30%～50% (イ) 3,000万円 (ウ) 10%
4. (ア) 30%～50% (イ) 1,000万円 (ウ) 5%

【第5問】下記の（問14）～（問17）について解答しなさい。

問14

柴田千恵子さんの毎年の収入は、年間90万円のパート収入のみであるが、平成23年においては、千恵子さんが契約（保険料を負担）していた養老保険（保険期間20年）の満期保険金250万円も受け取った。千恵子さんの平成23年分の総所得金額として、正しいものはどれか。

<平成23年中の収入>

内容	金額
給与収入（パート）	90万円
養老保険の満期保険金	250万円

（注1）養老保険の既払込保険料は180万円であった。

（注2）養老保険の配当金については考慮しないものとする。

<給与所得控除額の速算表>

給与等の収入金額		給与所得控除額
162.5万円以下		65万円
162.5万円超	180万円以下	収入金額×40%
180万円超	360万円以下	収入金額×30%+18万円
360万円超	660万円以下	収入金額×20%+54万円
660万円超	1,000万円以下	収入金額×10%+120万円

1. 35万円
2. 45万円
3. 60万円
4. 95万円

問 15

唐沢信二さんの平成23年分のアパート経営に係る収入・支出等は、下記<資料>のとおりである。唐沢さんの不動産所得の金額（青色申告特別控除前の金額）として、正しいものはどれか。なお、収入・支出等とも未払い・未収・前払い・前受けのものはないものとする。

<資料>

【唐沢信二さんが経営するアパートの収支状況等（平成23年分）】		
[収入]		
項目	金額	備考
家賃	8,900,000円	
礼金	150,000円	入居時に徴収し、全額返還を要しない。
敷金	150,000円	入居時に預かり、退去時に全額返還する予定である。
[支出等]		
項目	金額	備考
アパートローン返済額	2,700,000円	[返済額の内訳] 元本充当部分：1,520,000円 利息充当部分：1,180,000円
減価償却費	1,400,000円	アパートの建物に係るものである。
固定資産税等	560,000円	アパートの土地・建物に係るものである。
その他必要経費	500,000円	

1. 3,890,000円
2. 5,260,000円
3. 5,410,000円
4. 5,560,000円

問 16

馬場孝一さんは、平成23年中に下記<資料>の医療費を支払った。馬場さんの平成23年分の所得税の確定申告における医療費控除の金額として、正しいものはどれか。なお、馬場さんの給与所得は346万円で、このほかに所得はないものとする。また、妻および長男は同一生計である。

<資料>

支払日	医療等を受けた人	医療機関等	内容	支払金額
4月20日	妻	A病院	骨折で入院(注)	80,000円
9月12日	本人	B歯科医院	虫歯治療	200,000円
12月13日	長男	C薬局	風邪薬の購入	3,000円

(注) 生命保険契約における医療特約により入院給付金70,000円を受け取っている。

1. 30,000円
2. 113,000円
3. 183,000円
4. 213,000円

問 17

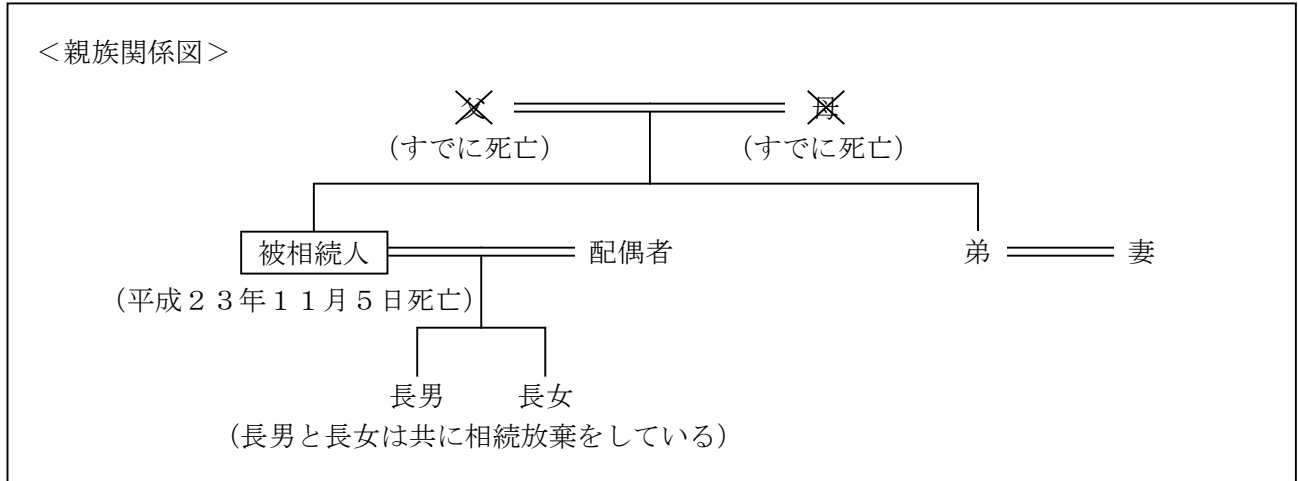
個人住民税に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 個人住民税にも所得税と同様に所得控除があり、個人住民税の基礎控除額は38万円である。
2. 大企業を有する市町村では、法人からの税収が多いため、個人住民税の税率が下がり、個人住民税額が低くなる傾向がある。
3. 平成24年度の個人住民税(所得割)は、平成24年の途中で転居したとしても、平成24年1月1日現在の住所地の市町村に対して納付することとなる。
4. 給与所得者の納付方法には、賞与および毎月の給与から個人住民税が徴収される特別徴収という方法がある。

【第6問】下記の（問18）～（問20）について解答しなさい。

問18

下記の＜親族関係図＞の場合において、民法の規定に基づく法定相続分に関する次の記述の空欄（ア）～（ウ）に入る適切な語句または数値を語群の中から選び、解答欄に記入しなさい。なお、同じ語句または数値を何度選んでもよいこととする。



[相続人の法定相続分]

- ・ 被相続人の配偶者の法定相続分は（ア）。
- ・ 弟の法定相続分は（イ）。
- ・ 長男・長女のそれぞれの法定相続分は（ウ）。

＜語群＞

なし	1/2	1/3	1/4	1/8	2/3
3/4	3/8	1/16			

問 19

下記<資料>の宅地（貸家建付地）について、路線価方式による相続税評価額として、正しいものはどれか。

<資料>

[借地権割合]	
記号	借地権割合
A	90%
B	80%
C	70%
D	60%
E	50%
F	40%
G	30%

注1：奥行価格補正率 20m以上24m未満 1.00
 注2：借家権割合 30%
 注3：この宅地には宅地の所有者の賃貸マンションが建っていて、現在満室（すべて賃貸中）となっている。
 注4：その他の記載のない条件は考慮しないものとする。

1. 45,000,000円
2. 105,000,000円
3. 118,500,000円
4. 150,000,000円

問20

下記のデータに基づき、相続税の課税価格の合計額を計算しなさい。なお、記載のない条件については、一切考慮しないこととする。また、解答に当たっては、解答用紙に記載されている単位に従うこととする。

＜課税価格の合計額を算出するための財産等の相続税評価額＞

土地	: 2,000万円 (小規模宅地等の減額の特例適用後)
建物	: 1,500万円
預貯金	: 3,000万円
投資信託	: 1,500万円
債務および葬式費用	: 500万円

【第7問】下記の（問21）～（問23）について解答しなさい。

＜荒木家の家族データ＞

氏名	続柄	生年月日	備考
荒木 道夫	本人	昭和35年 7月26日	会社員
和美	妻	昭和36年 4月 5日	主婦
真帆	長女	平成 3年11月13日	大学生

＜荒木家のキャッシュフロー表＞

（単位：万円）

経過年数			現在	1年	2年	3年	4年
西暦（年）			2011	2012	2013	2014	2015
平成（年）			23	24	25	26	27
家族構成 ／年齢	荒木 道夫	本人	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳
	和美	妻	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳
	真帆	長女	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳
ライフイベント						真帆 大学卒業	海外旅行
変動率							
収入	給与収入（夫）	1%	(ア)				
	給与収入（妻）	—	0	0	0	0	0
	収入合計	—					
支出	基本生活費	2%	270			(イ)	
	住居費	—	120	120	120	120	120
	教育費	—	120	120	120	0	0
	保険料	—	36	36	36	36	36
	一時的支出	—					50
	その他支出	—	15	15	15	15	15
	支出合計	—					
年間収支			—	8			
金融資産残高			1%	760	(ウ)		

※年齢は各年12月31日現在のものとし、平成23年を基準年とする。

※記載されている数値は正しいものとする。

※問題作成の都合上、一部空欄にしてある。

問 2 1

荒木家のキャッシュフロー表を作成するに当たり、下記の〈源泉徴収票〉を基に、キャッシュフロー表中の空欄（ア）に入る可処分所得を求めなさい。なお、計算に当たっては、住民税については31万円とし、計算結果については万円未満を四捨五入すること。また、解答に当たっては、解答用紙に記載されている単位に従うこととする。

〈荒木さんの源泉徴収票（一部抜粋）〉

平成23年分 給与所得の源泉徴収票																
支払 を受け る者	住所 又は 居所	横浜市青葉区〇〇町△-△								(受給者番号)						
										氏名						
										(フリガナ) アラキ ミチオ (役職名) 荒木 道夫						
種別	支払金額	給与所得控除後の金額				所得控除の額の合計額		源泉徴収税額								
給料・賞与	内 7,000,000 円	5,100,000 円				2,380,000 円		174,500 円								
控除対象配偶 者の有無等	配偶者特別 控除の額	控除対象扶養親族の数 (配偶者を除く)						社会保険料 等の金額	生命保険料 の控除額	地震保険料 の控除額	住宅借入金等 特別控除の額					
		特定	老人		その他		特別					その他				
有	無	従 有	従 無	老人	内	人	従 人	内	人	従 人	内	人	円	円	円	円
*					0	1							840,000	100,000	50,000	

問 2 2

荒木家のキャッシュフロー表の空欄（イ）に入る数値を計算しなさい。なお、計算に当たっては、キャッシュフロー表中に記載の整数を使用し、計算結果については万円未満を四捨五入すること。また、解答に当たっては、解答用紙に記載されている単位に従うこととする。

問 2 3

荒木家のキャッシュフロー表の空欄（ウ）に入る数値を計算しなさい。なお、計算に当たっては、キャッシュフロー表中に記載の整数を使用し、計算結果については万円未満を四捨五入すること。また、解答に当たっては、解答用紙に記載されている単位に従うこととする。

【第8問】下記の（問24）～（問26）について解答しなさい。

<設例>

下記の係数早見表を乗算で使用し、各問について計算しなさい。なお、税金は一切考慮しないこととする。また、解答に当たっては、解答用紙に記載されている単位に従うこととする。

<係数早見表（年利1.0%）>

	終価係数	現価係数	減債基金係数	資本回収係数	年金終価係数	年金現価係数
1年	1.010	0.990	1.000	1.010	1.000	0.990
2年	1.020	0.980	0.498	0.508	2.010	1.970
3年	1.030	0.971	0.330	0.340	3.030	2.941
4年	1.041	0.961	0.246	0.256	4.060	3.902
5年	1.051	0.951	0.196	0.206	5.101	4.853
6年	1.062	0.942	0.163	0.173	6.152	5.795
7年	1.072	0.933	0.139	0.149	7.214	6.728
8年	1.083	0.923	0.121	0.131	8.286	7.652
9年	1.094	0.914	0.107	0.117	9.369	8.566
10年	1.105	0.905	0.096	0.106	10.462	9.471
15年	1.161	0.861	0.062	0.072	16.097	13.865
20年	1.220	0.820	0.045	0.055	22.019	18.046
25年	1.282	0.780	0.035	0.045	28.243	22.023
30年	1.348	0.742	0.029	0.039	34.785	25.808

<係数早見表（年利3.0%）>

	終価係数	現価係数	減債基金係数	資本回収係数	年金終価係数	年金現価係数
1年	1.030	0.971	1.000	1.030	1.000	0.971
2年	1.061	0.943	0.493	0.523	2.030	1.913
3年	1.093	0.915	0.324	0.354	3.091	2.829
4年	1.126	0.888	0.239	0.269	4.184	3.717
5年	1.159	0.863	0.188	0.218	5.309	4.580
6年	1.194	0.837	0.155	0.185	6.468	5.417
7年	1.230	0.813	0.131	0.161	7.662	6.230
8年	1.267	0.789	0.112	0.142	8.892	7.020
9年	1.305	0.766	0.098	0.128	10.159	7.786
10年	1.344	0.744	0.087	0.117	11.464	8.530
15年	1.558	0.642	0.054	0.084	18.599	11.938
20年	1.806	0.554	0.037	0.067	26.870	14.877
25年	2.094	0.478	0.027	0.057	36.459	17.413
30年	2.427	0.412	0.021	0.051	47.575	19.600

※記載されている数値は正しいものとする。

問 2 4

坂上さんは、毎年 36 万円を 2 種類の金融商品に分けて積立てをすることにした。その内訳として、6 万円を年利 3.0% の複利運用、30 万円を年利 1.0% の複利運用とした場合、10 年後の合計額はいくらになるか。

問 2 5

山田さんは、今後 3 年間、年利 1.0% で複利運用しながら、1 年経過日ごとに 80 万円を子どもの教育資金として取り崩していきたいと考えている。現在いくら資金があればよいか。

問 2 6

高梨さんは、旅行費用として貯めてきた 168 万円を、年利 1.0% で複利運用しながら 8 年間、毎年年末に均等に取り崩したいと考えている。この場合、毎年いくらずつ受け取ることができるか。

【第9問】下記の（問27）～（問33）について解答しなさい。

<設例>

工藤修さんは、民間企業に勤務する会社員である。修さんと妻の恵子さんは、今後の資産形成や家計の見直しについて、FPで税理士でもある米田さんに相談をした。なお、下記のデータはいずれも平成24年1月1日現在のものである。

<家族構成>

氏名	続柄	生年月日	年齢	備考
工藤 修	本人	昭和40年5月13日	46歳	会社員
恵子	妻	昭和40年8月26日	46歳	パート勤務
愛	長女	平成 6年7月 5日	17歳	高校2年生
翼	長男	平成 8年9月21日	15歳	中学3年生

<収入金額（平成23年）>

- ・ 修さん 給与収入：500万円（手取り） 修さんに給与収入以外の収入はない。
- ・ 恵子さん 給与収入： 90万円（手取り） 恵子さんに給与収入以外の収入はない。

<金融資産（時価）>

- ・ 修さん名義
 - 銀行預金（普通預金） : 200万円
 - 銀行預金（定期預金） : 300万円
 - 個人向け国債（固定3年）: 50万円
- ・ 恵子さん名義
 - 銀行預金（普通預金） : 100万円
 - 銀行預金（定期預金） : 150万円
 - 投資信託 : 30万円

<住宅ローン>

債務者 : 修さん
借入先 : HA銀行
借入時期 : 平成15年8月
借入金額 : 2,600万円
返済方法 : 元金均等返済（ボーナス返済なし）
金利 : 固定金利
返済期間 : 20年間



問 27

修さんは、愛さんが大学へ進学する予定であることから、奨学金に関心があり、FPの米田さんに質問をした。米田さんが説明した、日本学生支援機構の奨学金に関する下表の空欄（ア）～（ウ）にあてはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。

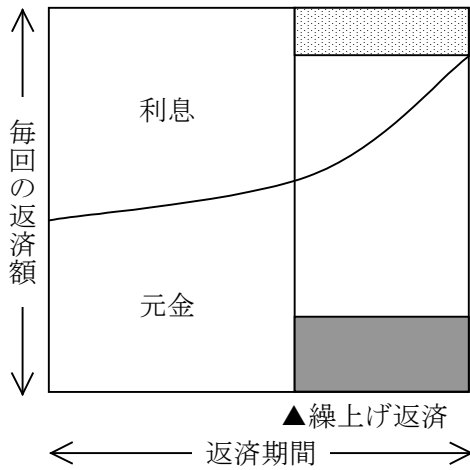
	返還義務の有無	利息の有無		家計支持者の年収・所得の上限額の有無
		在学中	卒業後	
第一種奨学金	（ア）	なし	なし	あり
第二種奨学金	あり	なし	（イ）	（ウ）

1. （ア）あり （イ）あり （ウ）あり
2. （ア）あり （イ）なし （ウ）なし
3. （ア）なし （イ）あり （ウ）あり
4. （ア）なし （イ）なし （ウ）なし

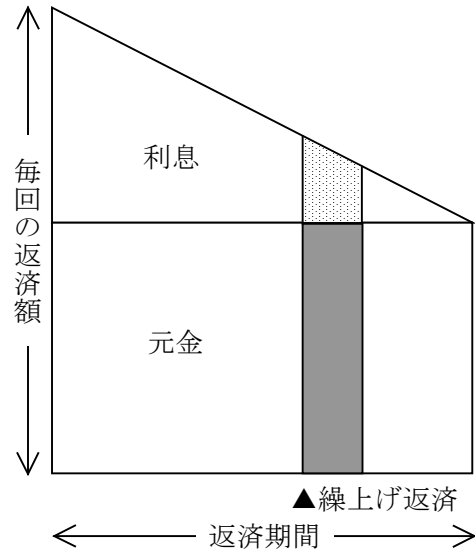
問 28

F P の米田さんは、住宅ローンの繰上げ返済について修さんから質問を受け、イメージ図を使ってその仕組みを説明した。修さんの住宅ローンを「期間短縮型」で繰上げ返済した場合のイメージ図として、最も適切なものはどれか。なお、繰上げ返済は元金部分に充当するものとし、図の網掛け部分（、）は繰上げ返済する元金部分または軽減される利息部分を表示している。

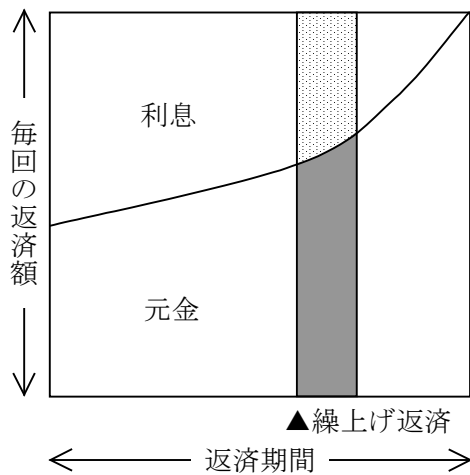
1.



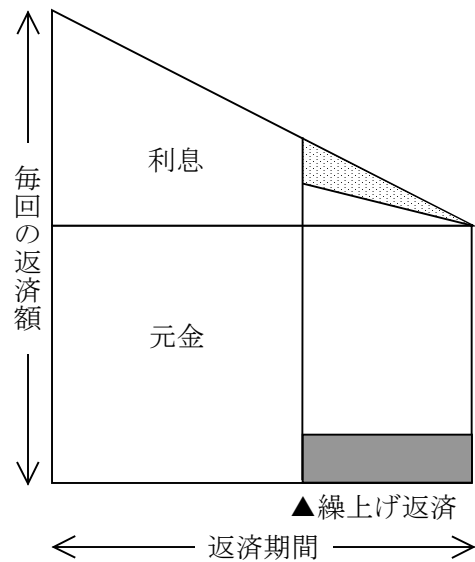
2.



3.



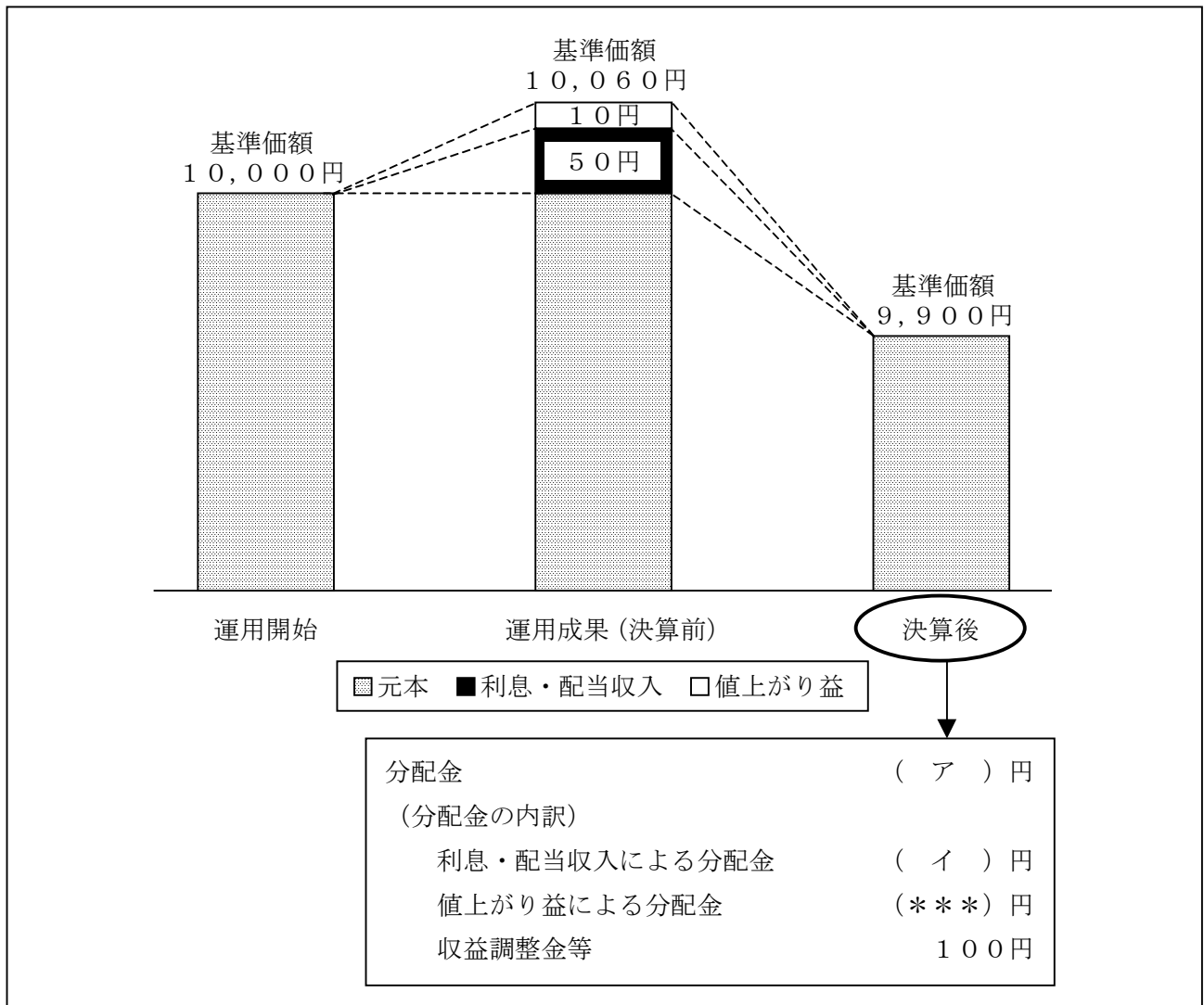
4.



問 29

恵子さんは、運用実績を上回る分配金を支払っている毎月分配型投資信託が多いという新聞記事を読み、FPの米田さんに分配金と基準価額の関係について質問をした。米田さんが説明した、下図の<分配金と基準価額のイメージ>の空欄（ア）、（イ）に入る適切な数値を語群の中から選び、その番号のみを解答欄に記入しなさい。なお、決算前と決算後の間に係る運用損益は考慮しないこととする。

<分配金と基準価額のイメージ>



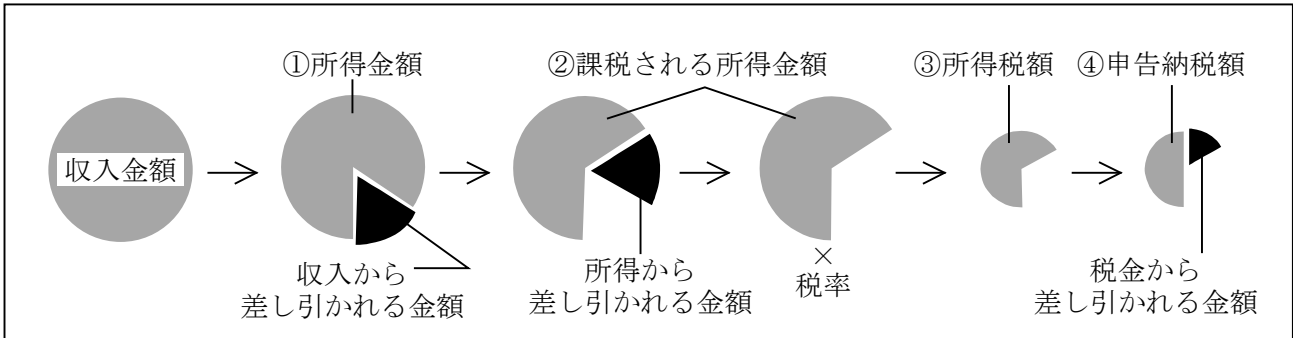
(注) 問題の性質上、一部 (***) としてある。

<語群>		
1. 40	2. 50	3. 60
4. 110	5. 150	6. 160

問30

修さんは、所得税の確定申告で医療費控除の申告を行う予定もあり、FPの米田さんに所得税の計算の流れについて質問をした。米田さんが説明した、下図の<所得税の計算の流れ>に関する次の記述の空欄（ア）～（ウ）にあてはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。

<所得税の計算の流れ>



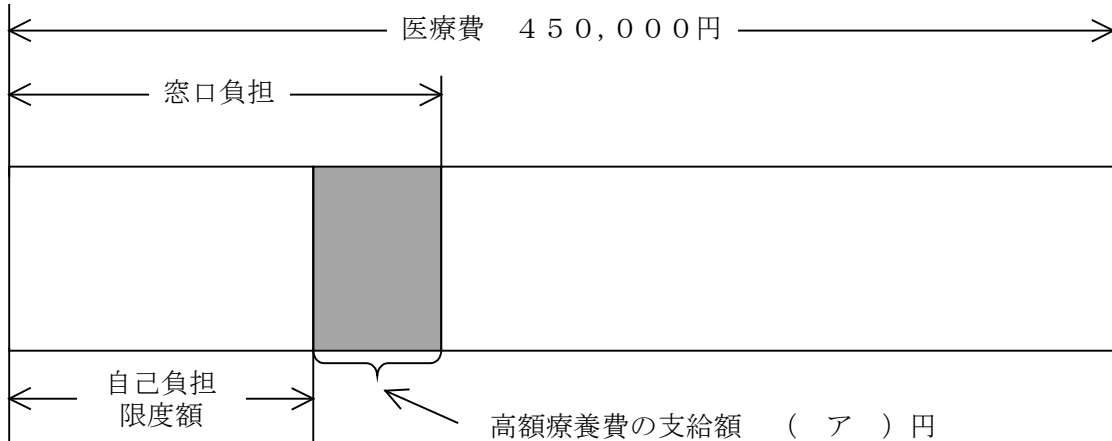
（出所：国税庁 平成22年 所得税の確定申告の手引き）

（ア）は「収入から差し引かれる金額」に、（イ）は「所得から差し引かれる金額」に、（ウ）は「税金から差し引かれる金額」に、それぞれ該当する。

- | | | |
|--------------|---------------|---------------|
| 1.（ア）公的年金等控除 | （イ）住宅借入金等特別控除 | （ウ）扶養控除 |
| 2.（ア）雑損控除 | （イ）基礎控除 | （ウ）生命保険料控除 |
| 3.（ア）給与所得控除 | （イ）社会保険料控除 | （ウ）住宅借入金等特別控除 |
| 4.（ア）配偶者控除 | （イ）医療費控除 | （ウ）配当控除 |

問31

修さんは、盲腸炎で7日間入院し、平成23年11月の医療費が総額450,000円かかったため、FPの米田さんに健康保険の高額療養費制度について質問をした。米田さんが説明した高額療養費制度に関する下図の空欄（ア）にあてはまる数値を解答欄に記入しなさい。なお、修さんは全国健康保険協会管掌健康保険（協会けんぽ）の被保険者であり、修さんの所得区分は「一般」に該当するものとする。



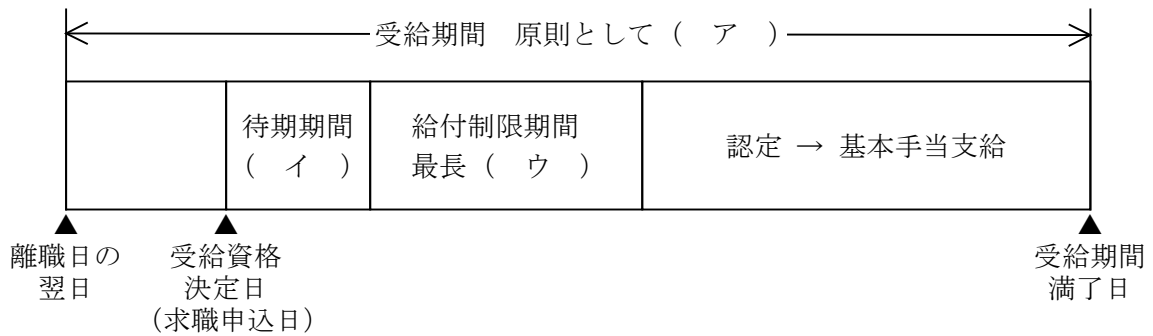
<1ヵ月当たりの医療費の自己負担限度額/70歳未満の人>

所得区分	医療費の自己負担限度額
上位所得者	150,000円 + (医療費 - 500,000円) × 1%
一般	80,100円 + (医療費 - 267,000円) × 1%
低所得者	35,400円

※多数該当については考慮しない。

問32

恵子さんの同僚の富田礼子さんは、ある資格を取得したこともあって転職を考えている。そこで恵子さんは、富田さんが退職した場合の雇用保険の基本手当について調べてみた。富田さんの基本手当の受給に関する下図の空欄（ア）～（ウ）に入る適切な語句を語群の中から選び、その番号のみを解答欄に記入しなさい。なお、富田さんは入社5年目の40歳で、雇用保険の基本手当の受給要件はすべて満たしているものとする。



- | | | | |
|---------|---------|---------|-----------|
| <語群> | | | |
| 1. 7日間 | 2. 10日間 | 3. 14日間 | 4. 1ヵ月間 |
| 5. 2ヵ月間 | 6. 3ヵ月間 | 7. 1年間 | 8. 1年6ヵ月間 |
| 9. 2年間 | | | |

問 3 3

恵子さんの母親の文子さんは、昭和17年4月10日生まれで、まもなく70歳になる。文子さんは老齢基礎年金を繰り下げて70歳から受給する予定である。文子さんの国民年金保険料納付済期間などが下記<資料>のとおりである場合、70歳到達月に繰下げの申出をした文子さんに支給される老齢基礎年金の年金額として、正しいものはどれか。

<資料>

[文子さんの国民年金保険料納付済期間]

昭和44年6月～平成14年3月 394月

※このほかに保険料納付済期間はないものとする。

[その他]

- ・ 老齢基礎年金の額（満額）：788,900円（平成23年度価額）
- ・ 文子さんの加入可能年数：40年
- ・ 繰下げ受給増額率：65歳到達月から繰下げ申出月の前月までの月数×0.7%
- ・ 振替加算は考慮しない。
- ・ 年金額の端数処理

年金額の計算過程においては円未満を四捨五入し、繰下げ受給の老齢基礎年金の年金額については、50円未満の端数が生じたときはこれを切り捨て、50円以上100円未満の端数が生じたときはこれを100円に切り上げるものとする。

1. 647,600円
2. 865,100円
3. 919,500円
4. 1,120,200円

【第10問】下記の（問34）～（問40）について解答しなさい。

<設例>

民間企業に勤務している増山明子さんは、最近夫の昌樹さんが死亡したため、今後の生活のことなどに関して、FPで税理士でもある沼田さんに相談をした。なお、下記のデータは、家族構成は平成24年1月1日現在のもの、それ以外は平成23年12月1日現在（昌樹さんが死亡する前）のものである。

I. 家族構成

氏名	続柄	生年月日	年齢	職業
増山 明子	本人	昭和34年7月7日	52歳	会社員
智子	長女	平成 2年6月3日	21歳	大学生
健太	長男	平成 6年8月6日	17歳	高校生
歩美	二女	平成 9年5月4日	14歳	中学生

注1：明子さんの夫の昌樹さんは、平成23年12月25日に交通事故により死亡している。この事故は、業務上の事故である（業務上の死亡に該当する）。なお、家族に障害者に該当する者はなく、全員、昌樹さんと生計を一にしていた。

注2：智子さんは、大学近くに下宿している。健太さんと歩美さんは、明子さんと同居している。

II. 財務データ

<資料1：保有財産（時価）>

（単位：万円）

	昌樹	明子
金融資産		
預貯金等	2,350	1,740
国内株式等	480	280
生命保険（解約返戻金相当額）	<資料3>を参照	<資料3>を参照
不動産		
自宅（マンション）	2,800	
賃貸アパート（土地）	2,600	
賃貸アパート（建物）	740	
動産等	250	120

注3：自宅および賃貸アパートには抵当権が設定されている。

<資料2：負債残高>

住宅ローン：2,740万円（債務者は昌樹さん。団体信用生命保険付き）

アパートローン：1,007万円（債務者は昌樹さん。団体信用生命保険なし）

<資料3：生命保険等>

(単位：万円)

保険種類	契約者	被保険者	死亡保険金 受取人	保険金額	解約返戻 金相当額	保険期間
定期保険A (グループ保険)	昌樹	昌樹	明子	2,000	なし	平成24年まで
定期保険B	昌樹	昌樹	明子	1,000 (注6)	なし	平成30年まで
終身保険C (定期保険特約付)	昌樹	昌樹	明子	(注5)	240	(注5)
養老保険D	昌樹	明子	昌樹	500 (注6)	420	平成30年まで

注4：解約返戻金相当額は、平成23年12月1日に解約した場合の金額である。

注5：終身保険C（定期保険特約付）の主契約（終身保険部分）の保険金額は500万円であり、定期保険特約部分の保険金額は2,000万円、保険期間は平成30年までである。

注6：定期保険Bには災害割増特約1,000万円が、養老保険Dには災害割増特約500万円が付加されている。このほかに災害割増特約が付加されている契約はない。

注7：すべての契約は、契約者が保険料を負担している。また、契約者配当および契約者貸付はない。

<資料4：収入状況>

昌樹さんの死亡直前の月額給与（賞与以外の普通給与の額）は75万円であった。

Ⅲ. その他

上記以外については、各設問において特に指定のない限り一切考慮しないこと。

問34

F Pの沼田さんは、まず昌樹さんの死亡前（平成23年12月1日現在）における増山家のバランスシート分析を行うこととした。下表の空欄（ア）に入る数値を計算しなさい。なお、昌樹さんの死亡に伴う財産・債務の保有状況の変化（例：生命保険金の支払い、遺産分割など）については考慮しないこと。

<増山家のバランスシート>

(単位：万円)

[資産]		[負債]	
金融資産		住宅ローン	×××
預貯金等	×××	アパートローン	×××
国内株式等	×××	負債合計	×××
生命保険(解約返戻金相当額)	×××		
不動産		[純資産]	(ア)
自宅	×××		
賃貸アパート	×××		
動産等	×××		
資産合計	×××	負債・純資産合計	×××

問35

昌樹さんの死亡により、明子さんに支払われる死亡保険金の額として、正しいものはどれか。なお、団体信用生命保険については考慮しないこと。

1. 5,500万円
2. 6,000万円
3. 6,500万円
4. 7,500万円

問36

明子さんは、昌樹さんのアパートローン（下記＜返済予定表＞参照）を全額繰上げ返済することを考えている。仮に、平成24年6月の約定返済と同時に、約定返済後のローン残高である9,567,943円を一括で繰上げ返済した場合、軽減される返済額として、正しいものはどれか。なお、繰上げ返済に伴う手数料等は考慮しないものとする。

＜返済予定表＞

（単位：円）

返済年月	返済額	返済額の内訳		返済後残高
		元金	利息	
平成24年 4月	96,561	72,099	24,462	9,712,682
平成24年 5月	96,561	72,279	24,282	9,640,403
平成24年 6月	96,561	72,460	24,101	9,567,943
平成24年 7月	96,561	72,641	23,920	9,495,302
（ 中 略 ）				
平成33年10月	96,561	95,840	721	192,400
平成33年11月	96,561	96,080	481	96,320
平成33年12月	96,561	96,320	241	0

1. 860,645円
2. 1,440,011円
3. 2,019,377円
4. 2,598,743円

問 37

昌樹さんの死亡により、昌樹さんの生前の勤務先であるMX株式会社から、死亡退職金として2,400万円が、弔慰金として500万円が明子さんに対して支払われた。この死亡退職金および弔慰金の相続税法上の取扱いに関するFPの沼田さんの次の説明の空欄（ア）、（イ）に入る適切な語句を語群の中から選び、その番号のみを解答欄に記入しなさい。

「昌樹さんの死亡直前の月額給与（賞与以外の普通給与）の額から判断すると、受け取られた死亡退職金のうち、相続税の課税対象となる金額は（ア）。また、弔慰金のうち、相続税の課税対象となる金額は（イ）。」

<語群>

- | | | |
|----------------|------------|------------|
| 1. ありません（ゼロです） | 2. 50万円です | 3. 275万円です |
| 4. 400万円です | 5. 500万円です | 6. 900万円です |

問38

明子さんは、FPの沼田さんに昌樹さんの死亡に伴う税務手続きについて質問をした。これに対する沼田さんの次の説明の空欄（ア）、（イ）に入る適切な語句を語群の中から選び、その番号のみを解答欄に記入しなさい。

「昌樹さんには、アパート経営に係る不動産所得があるため、1月1日から昌樹さんが死亡した日までの平成23年分の所得税に関して、（ア）に確定申告書を提出し、納税しなければなりません。これを準確定申告といいます。また、相続税の期限内申告書は（イ）に提出しなければなりません。」

注1：明子さんは、昌樹さんが死亡した当日（平成23年12月25日）に昌樹さんの死亡を確認している（相続開始を知った日は平成23年12月25日である）。

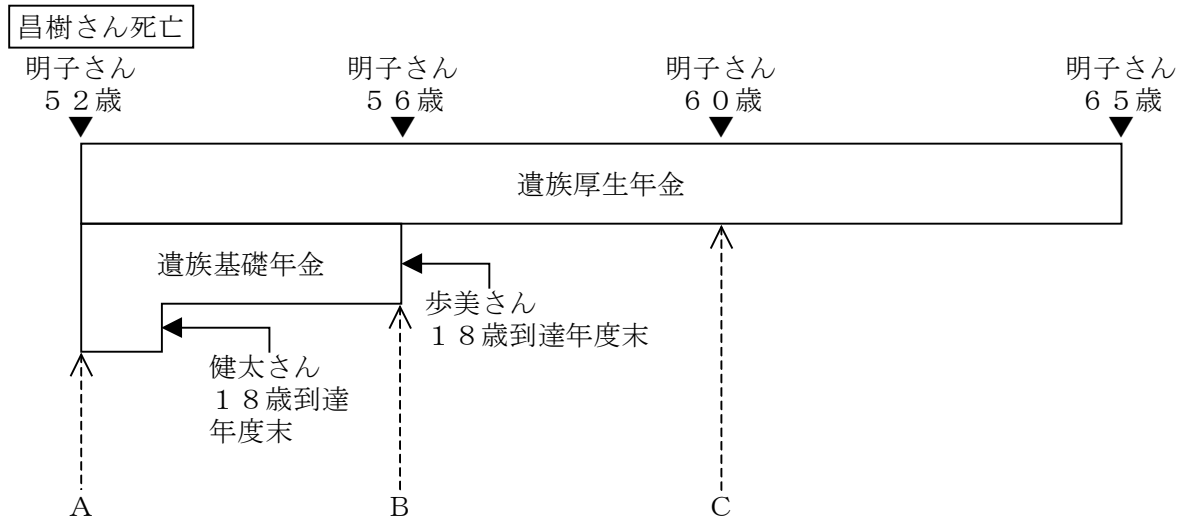
注2：＜語群＞に記載の日は、いずれも平日である。

＜語群＞

- | | |
|--------------------------|------------------|
| 1. 平成24年2月16日から3月15日までの間 | 2. 平成24年1月25日まで |
| 3. 平成24年4月25日まで | 4. 平成24年6月25日まで |
| 5. 平成24年10月25日まで | 6. 平成24年12月25日まで |

問39

明子さんは、公的年金の遺族給付を受けるに当たり、遺族厚生年金に中高齢寡婦加算がいつから加算されるのか、FPの沼田さんに質問をした。沼田さんが示した中高齢寡婦加算の加算開始時期に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。なお、明子さんの夫の昌樹さんは大学卒業後、23歳でMX株式会社に入社し、死亡時の55歳まで継続勤務（厚生年金保険に加入）しており、明子さんの年収は約400万円である。また、記載以外の受給要件はすべて満たしているものとする。



1. 明子さんには、中高齢寡婦加算が加算されることは一切ない。
2. 明子さんには、中高齢寡婦加算が図のAの時期から加算される。
3. 明子さんには、中高齢寡婦加算が図のBの時期から加算される。
4. 明子さんには、中高齢寡婦加算が図のCの時期から加算される。

問 40

明子さんの兄の謙治さんは、大学卒業後、勤務し続けてきた会社をまもなく定年退職する。そこで明子さんは、謙治さんの退職後の公的医療保険についてFPの沼田さんに相談をした。全国健康保険協会管掌健康保険（協会けんぽ）の任意継続被保険者に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 任意継続被保険者の加入申出期限は、健康保険の資格喪失日から14日以内である。
2. 任意継続被保険者として加入できる期間は最長で1年間である。
3. 任意継続被保険者には被扶養者の制度が設けられていない。
4. 任意継続被保険者の保険料は全額自己負担であり、事業主による負担はない。

模範解答

ファイナンシャル・プランニング技能検定 2級実技試験（資産設計提案業務）

平成24年1月22日実施

厚生労働大臣指定試験機関

特定非営利活動法人（NPO法人）

日本ファイナンシャル・プランナーズ協会

各科目の配点は、特に記載のない限り、公表しておりませんのでご了承ください。配点に関するお問い合わせには、お答えできません。

- | | | | |
|-------|--------------------------------|-------|-----------------------|
| 問 1 | <u>(ア)○ (イ)× (ウ)○ (エ)○</u> | 問 2 1 | <u>568(万円)</u> |
| 問 2 | <u>(ア)× (イ)○ (ウ)○</u> | 問 2 2 | <u>287(万円)</u> |
| 問 3 | <u>3</u> | 問 2 3 | <u>776(万円)</u> |
| 問 4 | <u>(ア)× (イ)× (ウ)× (エ)○</u> | 問 2 4 | <u>3,826,440(円)</u> |
| 問 5 | <u>(ア)5,400(円) (イ)200(株)</u> | 問 2 5 | <u>2,352,800(円)</u> |
| 問 6 | <u>(ア)4(m) (イ)2(項) (ウ)2(m)</u> | 問 2 6 | <u>220,080(円)</u> |
| 問 7 | <u>(ア)○ (イ)× (ウ)○ (エ)×</u> | 問 2 7 | <u>1</u> |
| 問 8 | <u>4</u> | 問 2 8 | <u>2</u> |
| 問 9 | <u>(ア)× (イ)× (ウ)○ (エ)○</u> | 問 2 9 | <u>(ア)6 (イ)2</u> |
| 問 1 0 | <u>(ア)× (イ)○ (ウ)× (エ)○</u> | 問 3 0 | <u>3</u> |
| 問 1 1 | <u>1</u> | 問 3 1 | <u>53,070(円)</u> |
| 問 1 2 | <u>(ア)1 (イ)3 (ウ)6 (エ)4</u> | 問 3 2 | <u>(ア)7 (イ)1 (ウ)6</u> |
| 問 1 3 | <u>4</u> | 問 3 3 | <u>3</u> |
| 問 1 4 | <u>1</u> | 問 3 4 | <u>8,273(万円)</u> |
| 問 1 5 | <u>3</u> | 問 3 5 | <u>3</u> |
| 問 1 6 | <u>2</u> | 問 3 6 | <u>2</u> |
| 問 1 7 | <u>3</u> | 問 3 7 | <u>(ア)4 (イ)1</u> |
| 問 1 8 | <u>(ア)3/4 (イ)1/4 (ウ)なし</u> | 問 3 8 | <u>(ア)3 (イ)5</u> |
| 問 1 9 | <u>3</u> | 問 3 9 | <u>3</u> |
| 問 2 0 | <u>7,500(万円)</u> | 問 4 0 | <u>4</u> |